

**PRESS RELEASE**

2021 年 1 月 21 日

一般社団法人カメラ映像機器工業会(CIPA)

## 「フォトイメージングマーケット統合調査：特別編」の結果について

一般社団法人カメラ映像機器工業会（CIPA：代表理事会長 真栄田雅也）は、デジタルカメラのユーザーを対象に「フォトイメージングマーケット統合調査：特別編」を実施した（調査委託先 株式会社 BCN：取締役会長兼社長 奥田喜久男）。

新型コロナウイルスの影響は、昨年 2 月に開催を予定した主催イベント CP+2020 の中止という直接の形で現れ、年に一度のフォトイメージングマーケットの祭典を心待ちにされたユーザーの皆様を落胆させたその後も影を落とし続けた。

前回調査でご報告させていただいた通り、意を決してカメラを購入、本格的な写真の世界に足を踏み入れたユーザーの皆様は、旅行を楽しみ、仲間との時間も充実、ファインダー越しに広がる光景を人生の楽しみにされていた。これは私たち業界にとって誇りでもあった。

外出すらままならない中での今回調査は、カメラに注がれる熱量の減退を突き付けられることを覚悟の上、それでも目を背けるべきではないという思いでの実施となった。

しかしながら、デジタルカメラに絞ったことも要因と思われるが（今回はスマートフォンでしか撮らない方も対象とした）、ユーザーの皆様からはむしろこれまで以上に力強い言葉の数々をいただくことができた。

今改めて、今だからこそ、カメラに支えられ、そして、フォトイメージングマーケットを支えていただけている皆様の声、確たる需要の存在をご報告したい。

### 「フォトイメージングマーケット統合調査：特別編」実施概要

1. 調査手法

Web 調査

2. 調査実施時期

2020 年 10 月上旬

GoTo トラベルに東京が加わった最初の週末を中心に実施。

3. 調査対象者

日本国内、女性・男性、10 代～70 代。

予備調査において、日本人の性・年齢構成に沿った回収割り当てを行った。

本調査の対象は、デジタルカメラユーザー（過去半年間にカメラを購入された方＋過去半年間にデジタルカメラで 30 枚以上写真を撮られた方）。

4. サンプル数

1,000 名（本調査）、14,769 名（予備調査）

## 「フォトイメージングマーケット統合調査:特別編」 結果概要

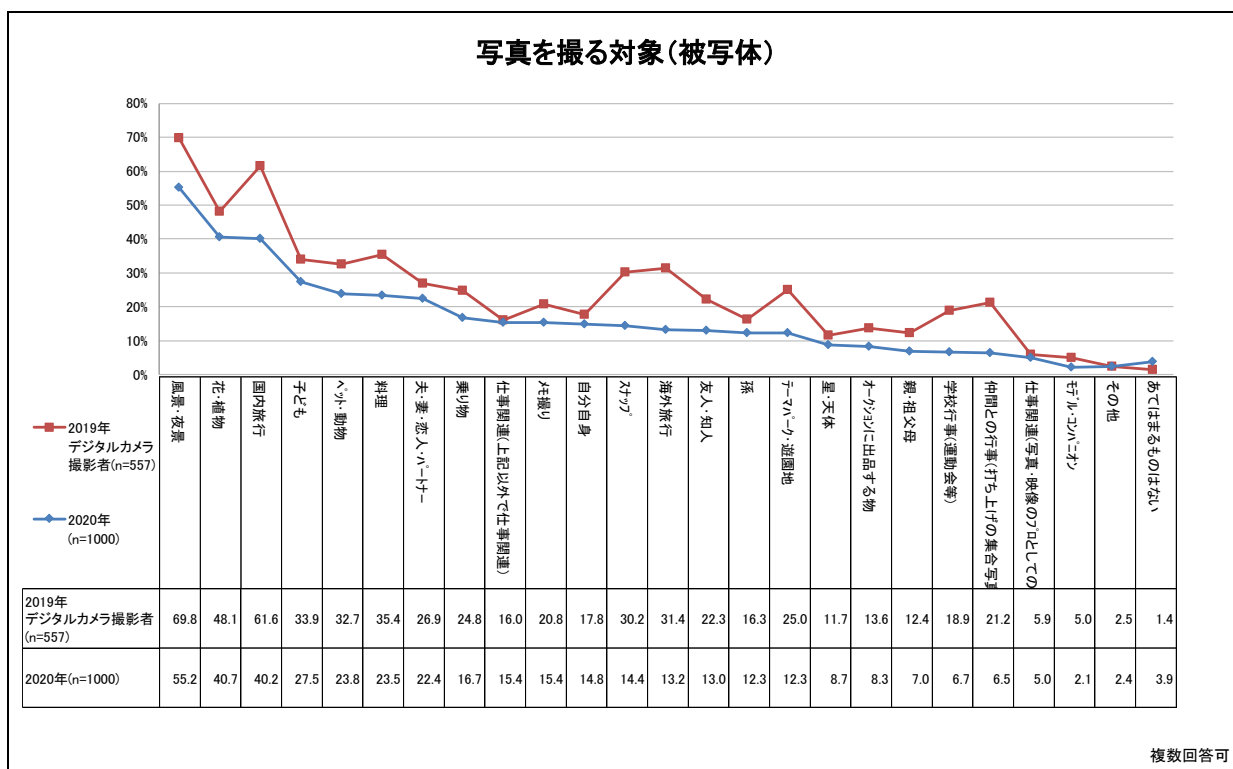
### ● コロナ禍の中の写真ファンを支え続けた被写体は・・・花・植物、家族写真。

「よく写真を撮る対象は何ですか?」としてよく撮る被写体を聞いた(過去半年で2-3回以上撮影)。

2019年調査		Top 5	2020年調査	
風景・夜景	69.8%	第1位	風景・夜景	55.2%
国内旅行	61.6%	第2位	花・植物	↑ RANK UP 40.7%
花・植物	48.1%	第3位	国内旅行	↓ RANK DOWN 40.2%
料理	35.4%	第4位	子ども	↑ RANK UP 27.5%
子ども	33.9%	第5位	ペット・動物	↑ RANK UP 23.8%

「風景・夜景」が第1位を保ったが69.8%から55.2%に15ポイント近く低下した。「国内旅行」も61.6%から40.2%に20ポイント以上低下、こちらは順位も下げた。

第2位に浮上したのが「花・植物」。軒並み大幅低下の中にあって48.1%から40.2%、ひと桁減に留まった。



同じく順位を上げて第4位となった「子ども」は33.9%から27.5%、第7位の「夫・妻・恋人・パートナー」は26.9%から22.4%、外孫に会える機会は貴重なものとなってしまったかもしれないが、「孫」も16.3%から12.3%、いずれも小幅下げたに過ぎない。

## デジタルカメラで花・植物の写真を撮りを楽しんでいる方々の声

- ▶ 「季節の花を撮ると気持ちが穏やかになる」(50歳・女性)
- ▶ 「野菜の生育調査をしています。毎日変わらないように見えますが、振り返るといつの間にか大きく変化しています。写真に残しておく、年単位ではそれがさらに、まったく違うほどの変化になっています。手をかけて、成長しているかどうか判ります。それは植物だけではなく、生産者の成長です」(52歳・男性)
- ▶ 「身近な公園の花がとても気になるようになって、心の潤いになっています」(56歳・女性)
- ▶ 「コロナ禍でも季節の花は咲き進む。身近な季節の花を撮るのも気晴らしになる」(65歳・男性)
- ▶ 「若い時からカメラが好きでした。入院中でも院内で(庭園)撮影しています」(72歳・男性)
- ▶ 「園芸が趣味で、花の開花を撮るのが好き。その写真を見返すのがまた楽しみ」(73歳・女性)
- ▶ 「家庭菜園での記録は楽しい。植物の生長を手助けしてその過程を残す事、及びその過程で色々な自然とのかかわりが見えてくる」(79歳・男性)

## デジタルカメラで家族写真を撮りを楽しんでいる方々の声

- ▶ 「コロナ禍だからからこそ、自宅で過ごす普段の家族の日常写真を撮る」(17歳・女性)
- ▶ 「今までは遠出やテーマパークなどの特別な場所でのピース写真やこちらを見ている写真ばかり撮っていましたが、コロナの影響で出かけられず、家の中で遊んでいる様子や庭で遊んだり、近所の散歩をしている何気ない表情を撮るようになり、写真のバリエーションが増えました。後ろ姿、横顔、泣き顔、怒った顔、一見失敗のように見えますがママにとっては良き思い出であり宝物です。こっちを向いた笑顔以外の写真の良さを知れて良かったです。コロナ終息後も身近な写真もたくさん撮っていききたいと思います」(31歳・女性)
- ▶ 「会えない祖父母や両親に写真を送ることで繋がっていられるのはうれしい」(36歳・女性)
- ▶ 「成長していく子供達との共通の趣味、退職した父の楽しみとして、家族の会話が広がるのを楽しみにカメラをやっていききたいです」(40歳・男性)
- ▶ 「高齢の母の元気な姿を多く残しておきたい」(59歳・女性)
- ▶ 「孫が生まれたばかりなので」(62歳・女性)
- ▶ 「幼稚園児の孫の活動しているところを写真に撮ることで気がまぎれます」(69歳・女性)

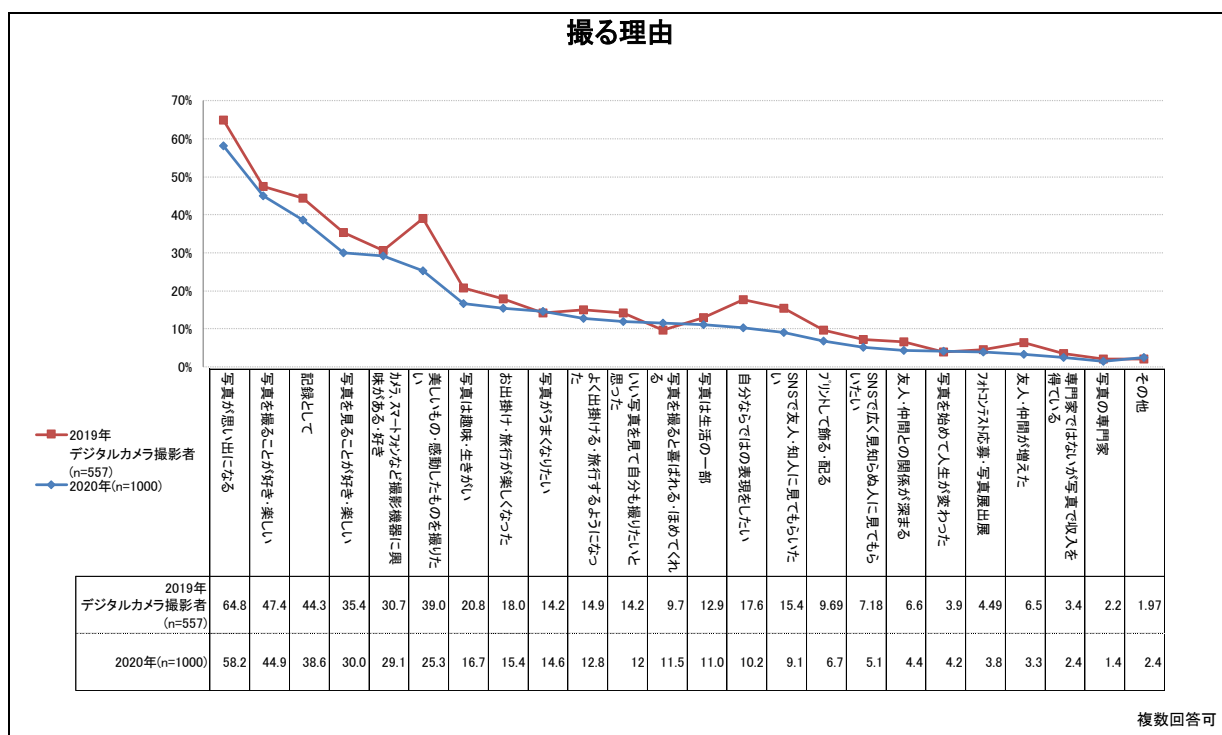
● **撮影する理由は「美しいもの・感動したものを撮りたい」が大幅に減ったが、「写真が思い出になる」の第1位、「写真を撮ることが好き・楽しい」の第2位は変わらない。**

「今、写真を撮る理由はなんですか」として今、デジタルカメラで撮影する理由を聞いた。

2019年調査		Top 5	2020年調査	
写真が思い出になる	64.8%	第1位	写真が思い出になる	58.2%
写真を撮ることが好き・楽しい	47.4%	第2位	写真を撮ることが好き・楽しい	44.9%
記録として	44.3%	第3位	記録として	38.6%
美しいもの・感動したものを撮りたい	39.0%	第4位	写真を見ることが好き・楽しい	30.0%
写真を見ることが好き・楽しい	35.4%	第5位	撮影機器に興味がある・好き	29.1%

「写真が思い出になる」「写真を撮ることが好き・楽しい」「記録として」まで順位は変わらず「写真を見ることが好き・楽しい」も上位をキープ、たった一つを除いて昨年との差はひと桁の範囲に留まった。

大きな変化があったのは「美しいもの・感動したものを撮りたい」で、39.0%から25.3%に低下した。



美しいもの・感動したものを撮る機会が減ったことはコロナ禍の残酷な仕打ちと言わざるを得ないが、写真ファンは決してふさぎ込んでいるばかりではない。心動かされる瞬間にシャッターを切る、カメラがそこにあることこそが支えとなっている現状を聞かせていただくことができた。

**写真が思い出になる・・・だから写真を撮る**

- ▶ 「コロナで修学旅行や学校行事が中止になり思い出を作れなくなったから、友達との日常を毎日カメラにおさめたい」(17歳・女性)

- ▶ 「とにかく思い出を残すことを憚らない」(41歳・男性)
- ▶ 「コロナ前後の写真を残すことが記録や歴史になる」(47歳・男性)

## 写真を撮ることが好き・楽しい・・・「元気が出る」・・・だから写真を撮る

- ▶ 「素直に撮りたいと思ったものを撮る。『そこに〇〇があれば』と理想や希望を感じたらすかさず撮り、大事にする」(18歳・女性)
- ▶ 「趣味を楽しみながら悲観的な雰囲気を自分なりに振り払う」(21歳・女性)
- ▶ 「ささやかだが楽しい、嬉しい、幸せだと感じる出来事を写真に撮る」(34歳・女性)
- ▶ 「写真を撮ることでストレスを発散できる」(36歳・男性)
- ▶ 「元気が出る」(37歳・男性)
- ▶ 「まず自分自身がコロナ以前からずっと、ストレスを受けやすい性格です。そのため何年も前、インスタントフィルムカメラ時代からずっと写真を撮り続けており、ガラケーでも写真や動画をとにかく撮り続けていました。ストレス解消のために非常に役立っています。そして今回のコロナも大変な状況ですが、気晴らしのために写真を撮る事は楽しいですし、気分発散にもなります。健康にも良いのかと思います。特にスマホは今や誰もが持っている物で、簡単に写真や動画が撮れるようになりました。多くの人々は普通の趣味程度でカメラを撮っていると思いますが、一つ上の気持ちで本格的な写真をとると、また違う楽しさを得られると思います。カメラ生活は誰にでもオススメできる、精神的にも元気になれる最高の趣味だと思います」(37歳・男性)
- ▶ 「瞑想ならぬ写真で自分に没頭し、コロナストレスをなくそう。趣味に打ち込めば幸福指数が上がるらしいです」(38歳・女性)
- ▶ 「考えないで楽しく」(39歳・男性)
- ▶ 「ひたすら没頭する」(40歳・男性)
- ▶ 「撮りたいものを探すことで、抱えているものを忘れることができる」(40歳・男性)
- ▶ 「心動かされたものを撮ると夢中になれる」(40歳・男性)
- ▶ 「時間を忘れる事ができる」(41歳・女性)
- ▶ 「写真には、鬱とした心を一瞬で吹き飛ばせる可能性があるかなと思いました」(46歳・女性)
- ▶ 「カメラを趣味、生活習慣の一部として過ごすことで心身ともに健康的でいられる」(62歳・男性)
- ▶ 「写真撮影自体が楽しく幸せ」(69歳・男性)

- ▶ 「昔は絵師に描かせていました。コロナ禍で気持ちも閉鎖的になりがち。でもひとたびカメラを構えれば、自分の意図をくみ取ってもらえるようなショットを、とシャッターを押す。後になって写真を眺めて、あたかも一篇の小説のようにその時のことを思ったり、思いがけないストーリーをくみ取ることもある。たくさん撮ることで、カメラを構えることで、うつ状態、要らざる心の緊張から解きほぐされる」(73歳・女性)

### 写真を見るのが好き・楽しい・・・「笑顔になれる」・・・だから写真を撮る

- ▶ 「写真を見ることにより、旅行に行けないストレスが緩和される」(30歳・男性)
- ▶ 「思い出の写真を見て笑顔になれる」(32歳・男性)
- ▶ 「今まで撮った写真を見ていて元気になった」(34歳・女性)
- ▶ 「写真をUPして知らない人から褒められたり有益な情報を知れたと言われて嬉しかった。写真はすごい。撮る人によって表現が全然違う。だからいろんな人の写真を楽しんで見ることができる」(43歳・女性)
- ▶ 「写真を素材にディスカッションするというのは、同じ趣味を持つ者同士で、とても楽しいと思います。家族、友人と、思い出して楽しむなど、写真は好きです」(52歳・女性)
- ▶ 「誕生からの写真を孫と見て孫の知らない思い出話をする。みんなに愛されて成長する孫の幸せな顔を見てみんなが幸せになる」(71歳・女性)
- ▶ 「いつか見た忘れられない絶景の写真を見てお家時間のストレスを発散しています。我ながらいい写真!と.....」(75歳・女性)

### 美しいもの・感動したものを撮りたい・・・「笑顔」・・・だから写真を撮る

- ▶ 「『カメラ』を通して美しい風景に出会う」(55歳・男性)
- ▶ 「人々が笑っている写真を撮りたい」(60歳・女性)
- ▶ 「とにかく、笑顔を撮ることです」(60歳・男性)
- ▶ 「コロナで外出制限があった時に、いつもは行かない場所まで足を延ばしたら、港越しに見えた自分の住む集合住宅が美しく見えて感動した。その際、どの窓にも明かりがついていて、みなさんが在宅しているのが分かった。その他にも港周辺の美しい景色も発見であった」(70歳・女性)

## 「生きがい」「仲間が増え人生が豊かに」「心が豊かに」・・・だからカメラを傍らに

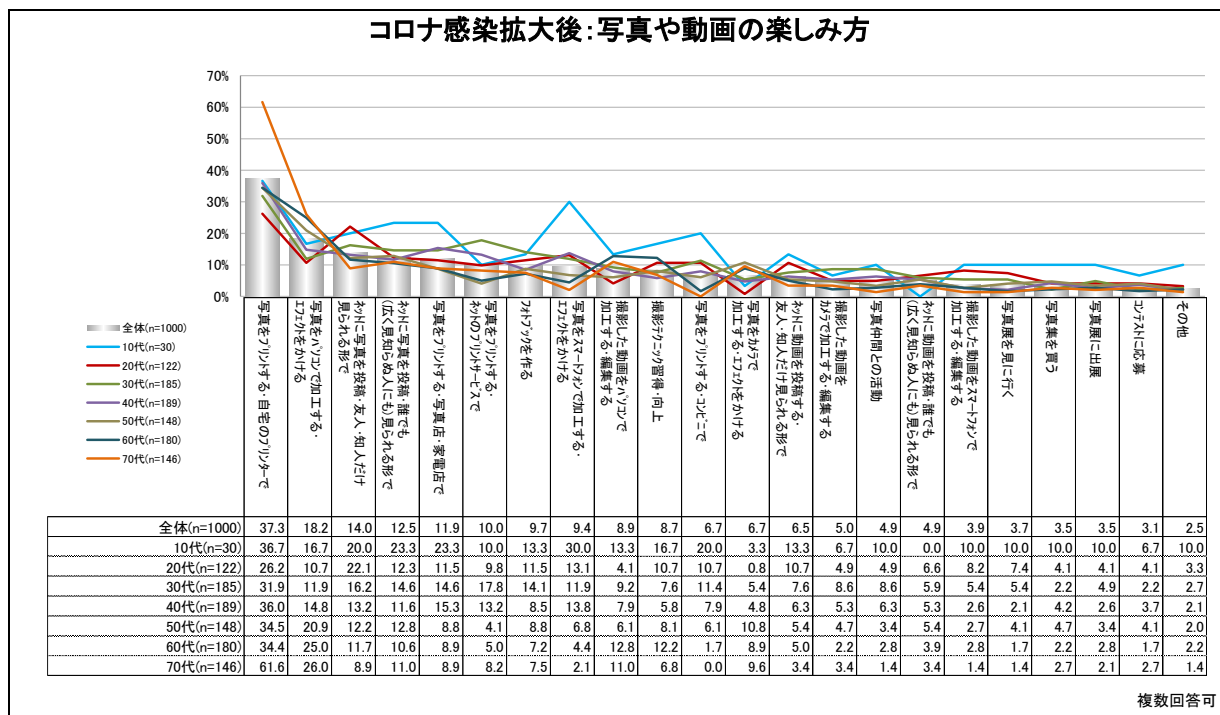
- ▶ 「自分が好きなものをカメラで撮ることは生きがいにもなっていていいと思う」(18歳・男性)
- ▶ 「好きなことを頑張ればいいと思う」(22歳・男性)
- ▶ 「カメラがあると自分や周りの時代の移り変わりを目で見られる形にできると思う。コロナだからといってカメラを使わなくなってしまうと今の時代を形に残せない。このようなときでも何かカメラに写していけたらいいなと思う」(26歳・女性)
- ▶ 「自宅時間の充実になる」(28歳・女性)
- ▶ 「趣味の仲間が増え人生が豊かになった」(33歳・男性)
- ▶ 「一眼レフカメラで撮っていたら、中学生の娘が『どうやって撮るの?』と興味を持ってきました。親子一緒に楽しみ、風景を共有するのはいいことだと思います。違った目線で撮られた写真はとても参考になります」(45歳・女性)
- ▶ 「きれいなものを撮ると心が豊かになる」(45歳・女性)
- ▶ 「カメラをもっと趣味として広めたい」(47歳・男性)
- ▶ 「お友達が増える」(65歳・男性)
- ▶ 「近所の高齢者とご一緒にカメラ持参の日帰りドライブでストレスを解消。もちろん感染予防をしっかりととして」(76歳・男性)

## 「喜んでくれる」「写真で幸せに」・・・だから写真を撮り続ける

- ▶ 「旅行にいけないので、過去旅行先で撮った写真を見返して楽しんでも。今後また自粛が厳しくなる可能性も考え、出掛けられる時は積極的に写真を撮って自分で見返したりシェアしていきたい」(31歳・女性)
- ▶ 「人々が前向きな気持ちになるような写真を撮りたい」(38歳・男性)
- ▶ 「特定の人に見せるだけの為に写真を撮っているが、その相手が楽しんでくれる、喜んでくれる写真が撮れた時は自分も嬉しくなる」(46歳・男性)
- ▶ 「たった一人の人でもその写真で幸せにできるかどうかいつも考えてシャッターを押します。自分しか幸せにならないならそれは自己満足の写真です。それでもいいんだろうかと悩みます」(64歳・男性)
- ▶ 「熊野古道の通る地域なので、人の密集しない風光明媚な景色を発信したい」(76歳・男性)

## ● 写真の多様な楽しみを体現・・・およそ4割が自宅のプリンターで写真をプリント。

「コロナ感染拡大後、どのように写真・動画を楽しんでいますか。写真・動画と関わっていますか」として、具体的な写真の楽しみ方を聞いた。



第1位は「写真をプリントする 自宅のプリンターで」37.3%で、4割に迫る。第2位「写真をパソコンで加工する・エフェクトをかける」18.2%、第3位「ネットに写真を投稿 友人・知人だけに見られる形で」14.0%、第4位「ネットに写真を投稿 誰でも（広く見知らぬ人にも）見られる形で」12.5%、第5位「写真をプリントする 写真店・家電店で」11.9%が上位となった。

「写真をプリントする 自宅のプリンターで」は「70代」が61.6%と高いが、これに次ぐのが「10代」の36.7%で、「10代」は「写真をプリントする 写真店・家電店で」が23.3%、唯一の2割超、「全体」は6.7%に留まった「写真をプリントする コンビニで」も20.0%と高く、プリント志向が際立った。

「ネットに写真を投稿」の2つの選択肢は、「友人・知人だけに見られる形で」は「10代」が20.0%、「20代」が22.1%とともが高かったが、「誰でも（広く見知らぬ人にも）見られる形で」は「10代」が23.3%と高い一方、「20代」は12.3%に留まった。

「写真を加工する・エフェクトをかける」の2つの選択肢は、「パソコンで」は「50代」から上が2割を超えたのに対して、「スマートフォンで」は「10代」が30.0%で突出した。

昨年の春や夏は例年のような形では訪れなかったが、それぞれの年代が、それぞれの写真の楽しみを見出していた。



## 撮れないときにも・・・プリントもフォトライフの醍醐味

- ▶ 「コロナの影響で会えない祖父母に、プリントアウトした写真を写真集にして郵送してあげた」(19歳・男性)
- ▶ 「安価なフォトブックを作ってみることに。やっぱり形になるのは嬉しいので」(28歳・女性)
- ▶ 「旅行など外に出掛けて撮る機会は減った。友人はスタジオや庭の写真を撮っている。私は人物や家族写真を撮るので、機会は減ったが、これからは、徐々に子どもたちと会ったりできると思うので、これからも、子どもや孫や集合写真を撮ってできるだけアルバムや額に残して時間があれば見返したい。コロナで自宅にいる時間が増えた時に、今までのプリントしたものを、家族別にアルバムに整理した。子どもたちの写真を見返して、とても充実して満たされた気持ちになった」(62歳・女性)

## 会えない時こそ・・・写真をシェア・カメラはコミュニケーションツール

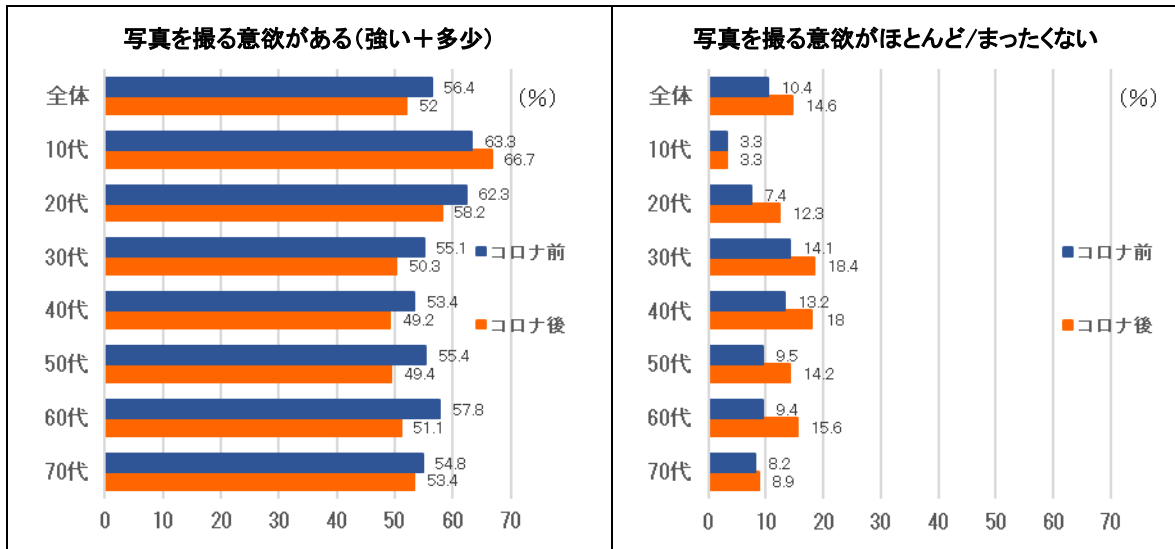
- ▶ 「投稿写真でモザイクアート」(19歳・女性)
- ▶ 「SNSなどを通してカメラで撮った写真を広める」(20歳・男性)
- ▶ 「今はSNSなどで自分を簡単に発信できる時代なので、それらを活用して自分の作品を公開し、シェアすることでコミュニケーションを広げられると思います」(23歳・女性)
- ▶ 「写真を会うことが難しいかたに届ける」(30歳・女性)
- ▶ 「写真や動画で、直接会えない人にもメッセージを送ることができた」(45歳・女性)
- ▶ 「先日の中秋の名月を撮って送ったり、美味しそうに出来た料理を送ったり、コミュニケーションツールとして使えると思います」(52歳・女性)
- ▶ 「ブログやSNSに投稿することで他の人が元気になれる」(64歳・男性)

## 「没頭できる」「想像の世界が開ける」・・・写真加工の世界

- ▶ 「加工することで没頭できる」(41歳・女性)
- ▶ 「写真を加工して歌詞動画を作った。好きな曲を選んで、子供の写真を加工して動画みたいに繋げる作業が楽しい」(43歳・女性)
- ▶ 「写真加工をして思ったように効果が上がると気分が高揚する」(60歳・男性)
- ▶ 「写真には活用方法がある。PCでの編集加工を覚えれば無限の想像の世界が開ける。しかし大元の写真は自分で気に入ったものを撮ることが出発点」(71歳・男性)

## ● 平均的な撮影意欲は一時後退の局面だが、若年層は高水準をキープ。

「コロナの前後で、写真を撮る意欲に変化はありましたか」として撮影意欲の変化を聞いた。



幾つもの積極的な写真ファンを紹介させていただいたが、これらは絞りこまれた代表的なものに過ぎない。

それでも、上図の通り、撮影意欲の平均値ということでは、コロナ禍の影響を否定できない。

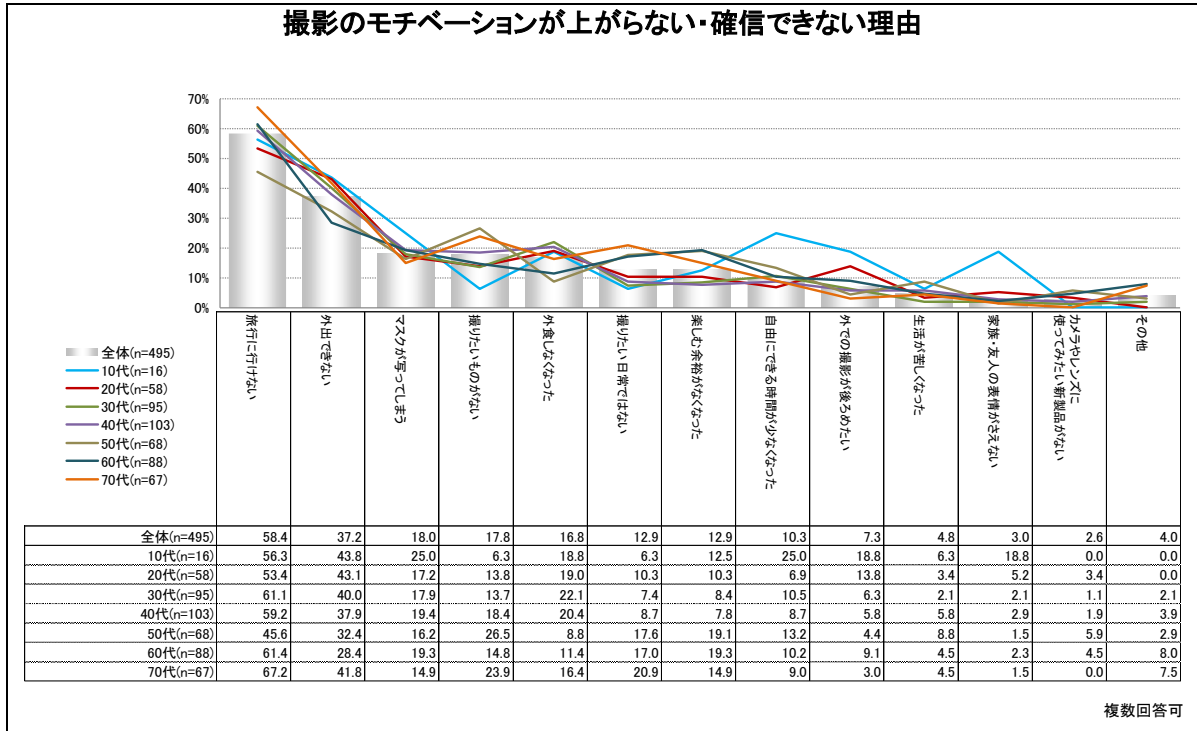
注目したいのは、コロナ前・コロナ後の「写真を撮る意欲」の変化が僅か数ポイントの範囲に留まること、そして、「10代」の意欲がむしろ高まったこと、「20代」の意欲も高水準にあることだ。

若くしてカメラに出会った幸運なユーザーがこれしきでひるまないのは当然のことと私たちは考える。

- ▶ 「なんでもいいから気になってものを撮る」(17歳・男性)
- ▶ 「マクロレンズを買って自宅にあるものでカッコいい写真を撮る」(18歳・男性)
- ▶ 「もっと身近なものを写真に収め 観察したり変化を撮影し 今まで自分が 見てなかったものに気付くから 行ってみたいと思う」(18歳・男性)
- ▶ 「写真を投稿して利用者を楽しませる」(19歳・男性)
- ▶ 「今は SNS など自分で簡単に発信できる時代なので、それらを活用して自分の作品を公開し、シェアすることでコミュニケーションを広げられると思います」(23歳・女性)
- ▶ 「美味しい料理を撮るだけでも気持ちが紛れる」(25歳・男性)
- ▶ 「外出自粛中は息抜きにベランダに来た小鳥を撮ったり、技術向上の為にフィギュアや本など自分の好きな物を様々な角度や部屋の電気光量を変えて撮っていた」(25歳・女性)
- ▶ 「近所に潜む意外な被写体を探す」(27歳・男性)

● **今は・・・「旅行に行けない」「外出できない」「マスクが写ってしまう」。**

先の見通し難いコロナ禍の中にあつて、前頁の撮影意欲に関する質問は、「分からない」とする回答もおよそ3割を占めた。こうした方々とコロナ後の撮影意欲について「ほとんど/まったく」とされた方に、「写真を積極的に撮ろうと思わない、あるいは撮る意欲がわからないのはなぜですか」として撮影のモチベーションが上がらない・確信できない理由を聞いた。



全体では「旅行に行けない」58.4%、「外出できない」37.2%、「マスクが写ってしまう」18.0%、「撮りたいものがない」17.8%、「外食しなくなった」16.8%。

多くはコロナ禍に打ち勝つことさえできれば解消できるものと言えそうだが、若い世代に深刻な影を落としていることを強く印象付ける結果ともなった。

サンプル数は少な目であるが(撮影意欲の高い割合が高くこの設問の対象者が少ないため)「10代」の「自由にできる時間が少なくなった」が25.0%、4分の1にも達して、他の世代を引き離れた。

同様に「10代」は「家族・友人の表情がさえない」が18.8%、さらに、「外での撮影が後ろめたい」が18.8%と高かった。「外食しなくなった」が22.1%と最も高かったのは「30代」だ。

▶ 「どうしてもマスクを付けないといけないので、表情が読めないことが多い。みんなの表情が分かるような写真を共有できればもっと楽しい生活になれると思う！」(28歳・女性)

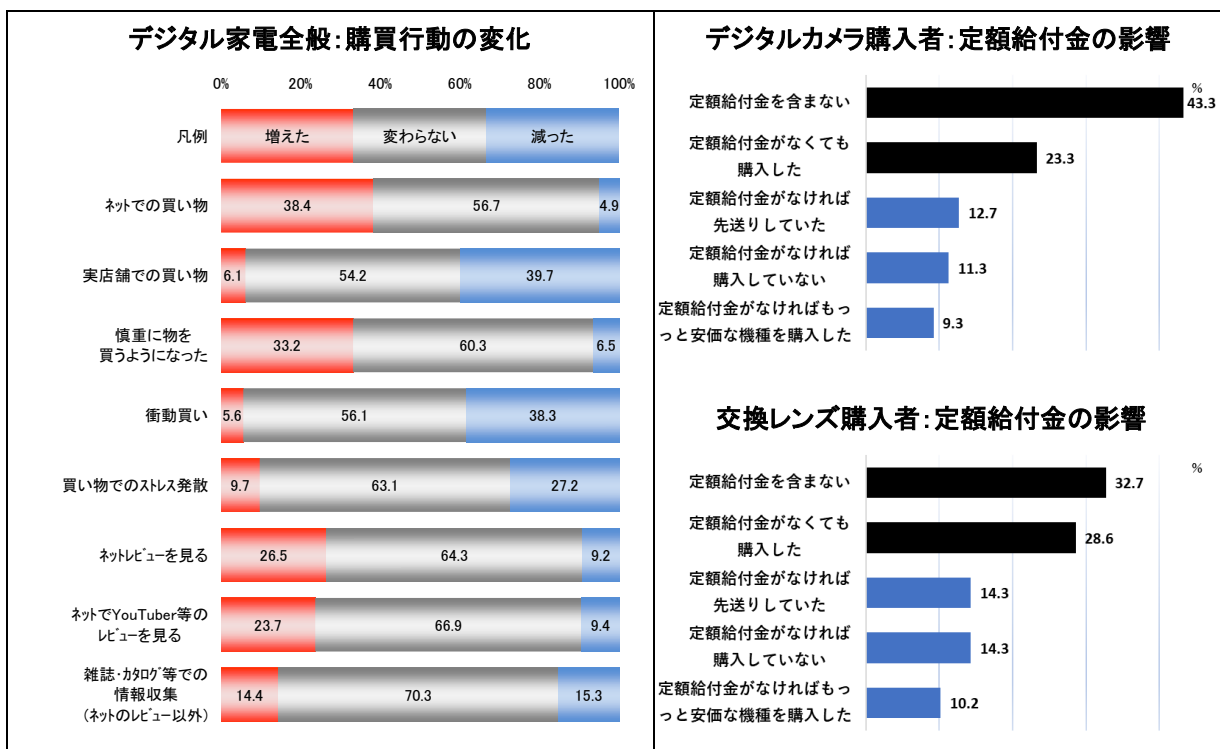
▶ 「コロナ禍で自殺される方も多いと思うので、週に一回は自分の笑顔の写真を撮るようにしています。自分の笑顔の写真を見ていると、落ち込んでいても、ああ、自殺なんてしちゃだめだ、と我に返ることが時折あるので」(33歳・女性)

● **衝動買いしない、慎重に物を買うようになった購買マインドを定額給付金がひと押し。**

「デジタルカメラやテレビ等の家電製品を買うとき、コロナ前に比べて、それぞれの度合いはどう変わりましたか」として購買行動の変化を聞いた。

「増えた」が顕著だったのは、「ネットでの買い物」38.4%、「慎重に物を買うようになった」33.2%、「ネットレビューを見る」26.5%、「ネットで YouTuber などのレビューを見る」23.7%。

「減った」が顕著だったのは、「実店舗での買い物」39.7%、「衝動買い」38.3%、「買い物でのストレス発散」27.2%、「増えた」に対して正に表裏の関係となった。



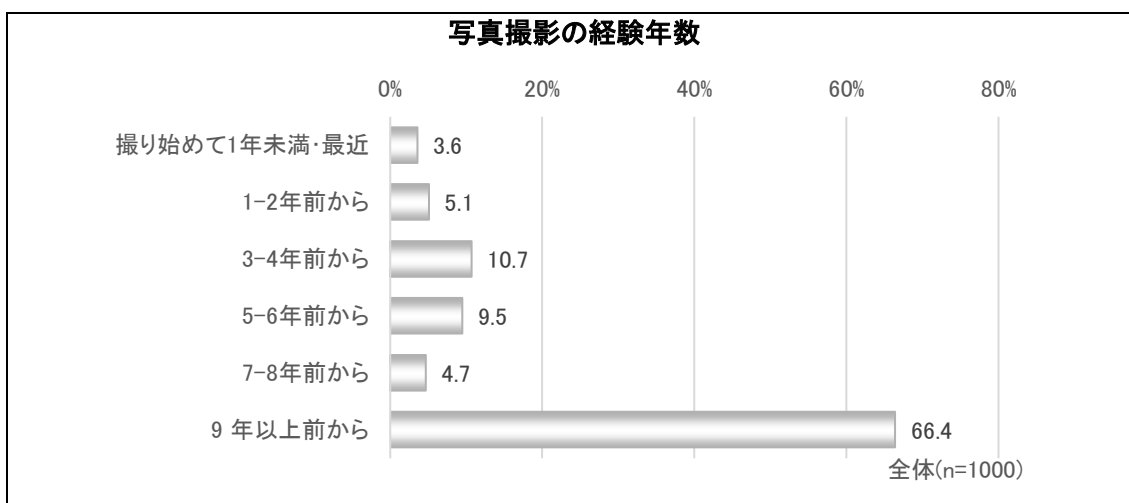
「過去半年間」すなわち昨年の春から夏に掛けてデジタルカメラを購入された方に「購入した資金に定額給付金は含まれていましたか。最も直近のご購入についてお答えください」として原資を聞いた。

デジタルカメラの購入で定額給付金の影響が認められたのは3分の1、33.3%（「定額給付金がなければ購入していない」11.3%+「定額給付金がなければ先送りしていた」12.7%+「定額給付金がなければもっと安価な機種を購入した」9.3%）、定額給付金の影響が認められなかったのは66.6%（「定額給付金を含まない」43.3%+「定額給付金がなくても購入した」23.3%）だった。

一方、交換レンズは、定額給付金の影響が認められたのは38.8%（「定額給付金がなければ購入していない」14.3%+「定額給付金がなければ先送りしていた」14.3%+「定額給付金がなければもっと安価な機種を購入した」10.2%）、定額給付金の影響が認められなかったのは61.3%（「定額給付金を含まない」32.7%+「定額給付金がなくても購入した」28.6%）で、より強い後押しとなった。

## ● 写真撮影の経験年数は、「9年以上前から」が3分の2で断トツ。

「写真を撮り始めたのはいつごろからですか？」として写真撮影の経験年数を聞いた。



スマートフォンユーザーを含む前回調査でも「9年以上前から」が過半数を占めたが、デジタルカメラユーザーに絞った今回調査では66.4%、およそ3分の2で圧倒した。

「5-6年前から」「7-8年前から」との合計、「5年以上前から」ということでは、80.6%、8割超となる。

スマートフォンで写真撮影を始めてデジタルカメラに移行した方はスマートフォンとの通算年数であり、スマートフォンを切っ掛けに写真撮影が好きになりもっときれいな写真を、もっと思い通りの写真を撮りたいという気持ちが高まってデジタルカメラの世界に入られる道筋も多い。

ニューカマーをもっとお招きするには、こうした経験値の豊富な方々、いつかは通った道という方々のアドバイスを得るのが何より近道と痛感させられる。

今回調査では、率直に、アイデア・ヒントをお聞きした。

## コロナに負けない！写真・カメラを楽しむアイデア・ヒント

### 今こそ、料理写真を！

- ▶ 「コロナでお家時間が増えていて自炊する機会も増えていると思うので自分の作った料理を写真におさめてフォトアルバムを作り満足感を味わう」(19歳・女性)
- ▶ 「自炊した料理の記録」(24歳・女性)
- ▶ 「美味しいものを撮ることは健康的な食事を取ることに繋がる」(36歳・男性)
- ▶ 「料理作ることが興味になり、カメラで撮影して自慢したい」(36歳・男性)
- ▶ 「洋裁や、料理、面白いものを沢山撮る」(53歳・女性)

## 今こそ、つながりたい！

- ▶ 「皆で撮った写真をシェアする会をオンラインで設ける」(18歳・男性)
- ▶ 「優しい雰囲気がある写真のパネルディスカッションは開催良いと思います」(35歳・女性)
- ▶ 「こんな写真がほしい、とネット上で募集をかけて、それを見た人が実際に撮ってウェブにアップする」(35歳・男性)
- ▶ 「一人で楽しめる方もいれば、誰かと共有して楽しみたい方もいます。ステイホームで自分の写真を見てもらえるサイトなどあったら良いかなと思います」(39歳・女性)
- ▶ 「さまざまな学校行事が行えないので、学校での生活のようすや、行事のようすを、定期的に公開してくれると良いと思う」(41歳・女性)
- ▶ 「共通の趣味を共有出来たり、近い感覚のある誰かと写真を通じて夢を追いかけるなど…企画次第で参加型の写真イベントが広がるのでは？」(52歳・女性)
- ▶ 「発表会開催」(64歳・男性)
- ▶ 「高齢者の見守り訪問の時に、ワンショットの写真を撮影し、本人が希望すれば提供している」(72歳・男性)

## 今こそ、フォトコンテストを！

- ▶ 「夕焼けコンテスト」(20歳・女性)
- ▶ 「日常写真のフォトコンテスト」(29歳・女性)
- ▶ 「Go To キャンペーンで旅行に行った際の写真を投稿し、利用した人だけが得られるような特典があればやってみたい」(38歳・男性)
- ▶ 「被写体を限定した写真コンテストなんか、あったら楽しいなと思います」(40歳・女性)
- ▶ 「フォトコンテストの活用」(43歳・男性)
- ▶ 「笑顔のコンテスト…並んでいるだけで楽しい気分になると思う」(61歳・女性)
- ▶ 「ポートレートリレー」(61歳・男性)

## 今こそ、写真展を！

- ▶ 「身近なものを題材にした写真展」(33歳・男性)
- ▶ 「ネットでの展覧会を開催する」(41歳・男性)

- ▶ 「写真を見られる場(展覧会、ホームページ、壁紙など)をもっと増やしてほしい」(51歳・男性)
- ▶ 「写真集が気軽に手に入る、見れると、そんな写真を自分も撮りたいと思う」(52歳・男性)
- ▶ 「テーマを決めた気軽なスナップ写真展等、本格的とはいかなくてもみんなが楽しめる企画はどうでしょう。都道府県の市町村毎に、順番にスポットを当てるのも面白いのでは。老若男女が気軽に参加出来ると思います」(61歳・女性)
- ▶ 「コロナを題材にするような写真展、こんなマスクとか、皆さんが作ったマスクの写真展とか積極的に開催すべきだと思います」(75歳・男性)

### コロナ禍でも継続・思いは変わらない

- ▶ 「人生を豊かにし、写真の持つ醍醐味を後世に伝える事により歴史が創られると考えています」(39歳・男性)
- ▶ 「数ではなく質を追求」(43歳・男性)
- ▶ 「趣味として本格的な写真を撮る」(46歳・女性)
- ▶ 「外はまだ、コロナが安全?なので、主人と散歩のついでに、日常の何気ない風景を撮ったりして、楽しい散歩を満喫している」(60歳・女性)
- ▶ 「写真クラブに所属しているので、仲間との定期交流、発表がモチベーションとなっている。一人だったとしたら、写真活動は止めると思う」(65歳・男性)
- ▶ 「外出が少なくなっている時だからこそ、町内会報の制作で住民に情報提供することは大事なことだと思います」(67歳・男性)
- ▶ 「今は 孫4人の成長記録に頑張っています 同じ場所で5年続けて 5年前のと見比べて楽しんでいます これから先成人に成るまで続けたい」(72歳・男性)
- ▶ 「孫たちの成長記録をカメラに残し、孫たちにプレゼント」(72歳・男性)

### コロナ禍での気づき

- ▶ 「海外に行く事が生きがい、国内旅行も好きだったのに、自由が無くなった。今できる事として、近辺の寺院巡礼を始めた。有名な霊場巡礼だとネット情報に本等もあるが、マイナーな地元の巡礼だと情報もないに等しい。カメラを持ち、巡礼の記録としてまた無い情報の中でいかに絵になるものを探して撮影している。SNS 内には自分だけ見られる情報として、記録アップしている」(48歳・女性)

- ▶ 「介護対象者を毎日、同じシチュエーションで撮影していると、ときどき変化に気づくことがある。介護の世界で新しい利用法があるように感じている」(52歳・男性)
- ▶ 「実際に見ていない風景でも、他の人が撮った写真を見ることにより、きれいな景色や光景を目にすることができるのは、素敵なこと。他者とのコミュニケーションを通じて、その場面を見ていなくとも、素敵な記憶を共有できると良いと思う。また、同じ場面でも、スマホの写真と、カメラの写真は大分異なる。単なる記録にとどまらず、目で見ているよりも、写真に撮った方が、より美しく残せるような、テクニックの不要なカメラが欲しい」(58歳・女性)
- ▶ 「あまり SNS が好きでなく、スマホも持っておらず、ラインは未体験、FB もほぼ未使用です。撮った写真は、グーグルフォトに入れ、テーマごとにアルバムにまとめ、そのアルバムを見せたい人にだけ見れるように。コロナになり、友人に会う機会が激減し、パソコンでのメール(お便りの)交換が増えました。その際、日常の写真を1、2枚添付するようになり、互いに心温まり、会えていない飢餓感のようなものを少し補えている感じがしています」(61歳・女性)
- ▶ 「カメラ抱えて、ローカル線乗るのが趣味です。カメラの腕を競う複数人のカメラ旅ではなく、一人でふらり旅。出掛けた先には予想外の出会ひも。このカメラ人生こそ、コロナ禍に打ち勝つ方法」(69歳・男性)
- ▶ 「スマホで撮る人が多い中カメラは電池がより長く持つ。実感したのでカメラの利用頻度を増したい」(73歳・女性)
- ▶ 「撮る人も含めて楽しくなれる」(76歳・男性)

以上、調査結果より抜粋。

回答者の皆様に心より感謝申し上げます。

当工業会は、2021年2月25日(木)～28日(日)、CP+2021をオンライン開催します。

「フォトイメージング市場統合調査」の結果は、CP+2021「CIPA マーケットセミナー」の中でより詳細なご報告を予定します。

● 本件問い合わせ先

一般社団法人カメラ映像機器工業会 CIPA

E-mail: infostat@cipa.jp